

科目名	医療倫理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	服部健司	単位	2	必修・選択	選択

目的	広義の医療倫理の領域において一義的に正しいとされる答えの定まらない問題を考え抜く力を養う。
学習到達目標	知識の習得や原則の適用の術を磨くのではなく、日常のなかで埋もれている倫理問題に気がつくための問題発見的な感受性を身につけ、さらにその問題を批判的・反省的に考えることができるようになる。
成績評価方法	授業への参加態度および授業後のミニレポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	言語化不能なこと	W・アレン 『マンハッタン』	服部 健司
2	感性の多様	シュヴァンクマイエル 『庭園／肉片の恋』	服部 健司
3	ケース・スタディ（1）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
4	「全人的医療」	医学の目的、「全人的医療」がはらむ問題	服部 健司
5	ケース・スタディ（2）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
6	守秘義務	プライバシーと守秘義務	服部 健司
7	ケース・スタディ（3）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
8	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントのゆらぎ	服部 健司
9	ケース・スタディ（4）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
10	患者の意思の自由と自律	パターンリズムと患者の自律	服部 健司
11	ケース・スタディ（5）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
12	医療と性	社会、セクシュアリティ、性	服部 健司
13	ケース・スタディ（6）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
14	よい死	死の準備教育は必要かー「よい死」はあるか	服部 健司
15	ケース・スタディ（7）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議、まとめ	服部 健司

教科書	服部健司・伊東隆雄『医療倫理学のABC』メヂカルフレンド社(2004)
参考書	

科目名	医療運営・管理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	太田加世 柴山勝太郎	単位	2	必修・選択	選択

目的	医療制度が看護現場に及ぼす様々な影響を理解した上での、病院運営、看護組織運営を理解できる
学習到達目標	医療制度のおおよそを理解し、その中で病院経営の在り方、看護組織の運営の在り方について、提案できること
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	【太田加世】 社会保障制度と看護	社会保障制度の概要を理解し、看護を取りまく状況を検討する	太田 加世
2	医療保険制度	医療保険制度を理解し、その問題点を検討する	太田 加世
3	医療制度	最近の医療制度改革を理解し、看護への影響を検討する	太田 加世
4	医療提供体制	看護職の人的資源の確保と専門職としての役割について検討する	太田 加世
5	同上		
6	診療報酬制度	診療報酬制度を理解し、その課題を検討する	太田 加世
7	同上		
8	介護保険制度	介護保険制度が医療に及ぼしている影響を検討する	太田 加世
9	トピックス	その時の時事課題について検討する	太田 加世
1	【柴山勝太郎】 (1)病院経営の仕組み	公立病院を事例に、病院経営の基本的な仕組みを学ぶ 病院の自立は健全経営で	柴山 勝太郎
	(2)病院経営の実践	病院医療が抱える課題を取り上げ、病院経営のあり方について学ぶ	
2		① 療はマンパワーで作られるサービス	柴山 勝太郎
3		②救急医療は医療の原点	柴山 勝太郎
4		③医師不足？	柴山 勝太郎
5		④病院のリスクマネジメント	柴山 勝太郎
6	(3)医療をとりまく環境 の変化	わが国の医療をとりまく環境の変遷を学ぶとともに、少子高齢化社会における病院医療のあり方を考える グローバルスタンダードとの比較	柴山 勝太郎

教科書	
参考書	<参考図書>進化する病院マネジメント 川淵孝一（医学書院）2004年

科目名	人体の構造と機能学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	小林 功 木村 朗 浅見 知市郎	単位	2	必修・選択	選択

目的	人体の構造、および環境との関係を機能についての知識をより深め、それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力を養う
学習到達目標	1) 基礎教育で学んだ人体の構造機能の知識を看護・リハビリテーションの実践にどう活かしてきたかを振り返りながら、人体の構造、および環境との関係を機能についてより深い知識を獲得する 2) それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力が高まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	人体の機能・生理	人体の生理学的機能の特徴	小林 功
2	人体の構造・生理	人体の生理学的機能の特徴	小林 功
3	環境と生体機能	自然環境と生体機能	小林 功
4	消化器疾患	消化器系の病理	小林 功
5	呼吸器疾患	呼吸器疾患の病理	小林 功
6	循環器疾患	心血管障害の病理	小林 功
7	自己免疫疾患	自己免疫の機序	小林 功
8	脳血管障害	脳血管障害の病理	小林 功
9	神経疾患	神経系の病理	小林 功
10	口腔・歯科疾患 I	口腔とその周辺の解剖・生理	浅見 知市郎
11	口腔・歯科疾患 II	歯科疾患	浅見 知市郎
12	人体機能学の実践 I	身体活動と人体適応の実践	木村 朗
13	人体機能学の実践 II	身体活動と呼吸循環機能の実践	木村 朗
14	人体機能学の実践 III	身体活動と代謝の実践	木村 朗
15	人体の構造・機能の相関	人体の巧緻性序論	小林 功

教科書	
参考書	肥満・肥満症の指導マニュアル第2版、メタボリックシンドローム実践マニュアル、高齢者運動処方ガイドライン、アダプティド・スポーツの科学、運動処方の指針、慢性疾患を有する人への運動指導テキスト、ネッター解剖学アトラス

科目名	加齢医学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	小林 功 栗田 昌裕 木村 朗 浅見 知市郎	単位	2	必修・選択	選 択

目的	基礎教育における、出生から死亡に至るまでの加齢過程で生じる現象、加齢と生活の蓄積に伴って生じる生活習慣病や知的機能の変化、およびその予防や健康改善の理解・知識をより精緻に発展させる。
学習到達目標	1. 加齢過程で生じる現象の理解、臨床実践を発展させる知識が深まる 2. 生活習慣病とその予防・改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる 3. 加齢に伴う知的機能の変化と改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	加齢過程で生じる現象 I	受精から始まるヒトの一生の発達と加齢過程 老化の機序	小林 功
2	高齢者の疾病	老年病の臨床と高齢者特有の症候	小林 功
3	高齢者の認知機能	高齢者の認知機能の特徴	小林 功
4	生活習慣病学	生活習慣病の概念	小林 功
5	肥満学	内臓脂肪と皮下脂肪、 アディポサイトカイン インスリン抵抗性	小林 功
6	糖尿病学	診断、治療をめぐって	小林 功
7	メタボリックシンドローム	特定健診とその対策	小林 功
8	知的機能の発達と加齢の 伴う変化	知能の生涯発達。流動的知能と結晶知能の違い。 記憶の仕組み。エピソード記憶と意味記憶。記憶の加齢 変化。人格と創造性の加齢変化	栗田 昌裕
9	知的機能の健康度の維持 改善 I	知的機能と情報処理機能の対応。知的機能と認知能力及 び運動機能との相関。認知機能訓練および運動機能訓練 による知的機能改善法とその効果	栗田 昌裕
10	知的機能の健康度の維持 改善 II	知的機能と自律機能及び感情の働きとの相関。自律機能 を活用した知的機能改善法と成果。感情情緒の制御による 知的機能改善法	栗田 昌裕
11	知的機能の健康度の維持 改善 III	知的機能と生活姿勢との相関。環境と習慣を活用した知的 機能改善法。記憶力と創造性の維持法	栗田 昌裕
12	老年歯学 I	口腔の加齢	浅見 知市郎
13	老年歯学 II	高齢者特有の歯科疾患	浅見 知市郎
14	障害をもつ人の運動と健康	障害者の身体活動とその効果	木村 朗
15	加齢における健康と疾病 について	加齢による健康障害に対する対処	小林 功

教科書	
参考書	肥満・肥満症の指導マニュアル第2版、メタボリックシンドローム実践マニュアル、高齢者運動処方ガイドライン、 アダプティッド・スポーツの科学、運動処方の指針、慢性疾患を有する人への運動指導テキスト

科目名	保健医療統計学特論	学年	1・2	前期・後期	後期
担当教員	未定	単位	2	必修・選択	選択

目的	保健医療の研究に必要な統計の基礎を理解する。
学習到達目標	保健医療の研究に必要な統計の基礎を理解し、簡単な研究計画を作成することができる。
成績評価方法	自分で考えた仮説を立証するための研究計画を作成して、レポートとする。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	統計とは何か。そして、結果をどう図示するか	まずい統計の例を示して、統計では何を示さなければならないかを明らかにする。最後に提出すべきレポートの概要を示す。	
2	傷病量の表し方	率、割合および比の違いを明らかにし、罹患率と有病率の違いを理解させる。	
3	交絡の概念と標準化 (1)	交絡の概念を明らかにし、間接法による年齢調整を行う。Excel の実習を含む。	
4	交絡の概念と標準化 (2)	直接法による年齢調整を行う。Excel の実習を含む。	
5	統計的データの種類および統計調査の計画と実施	統計におけるデータの種類の質的・量的特性を占めると同時に、統計調査の計画 (目的の明確化) と実施の概要を示す。	
6	調査票の作成、実査および事例調査の意義	実際に答えやすい調査票をすると同時に、それを実際に使用した時にどのようなことが起こるかを考える。事例調査との関係にも言及する。	
7	代表値とその算出	平均値と中央値の概念を示し、平均値と標準偏差を求める。Excel の実習を含む。	
8	2 つの変数の関連性の解析	2 変数の相関係数および関連性の解析を学ぶ。Excel の実習を含む。	
9	仮説定とは何か	検定とは何かを示し、分割表の検定、数量データの検定および順序データの検定を学習する。	
10	疫学とは何か	疫学とは何かを、疫学の歴史を含めて解説し、記述疫学の概要を述べる。	
11	分析疫学	コホート研究と症例対照研究の概要と研究の事例を述べる。	
12	介入研究およびリスクとその評価 (附:EBM)	疫学的実験である介入研究の考え方を述べ、寄与危険度と相対危険との違いおよびそれら意義に言及する。	
13	量反応関係とスクリーニング	整合性のある関連とはどういうものかを考え、スクリーニングによる第2次予防の考えかたを考える。	
14	因果関係論および疾病対策と評価	観察された関連性が因果関係に基づくものではないという証拠を示すにはどうしたらいいか。疾病対策全体に占める位置付けはどうか。	
15	まとめと研究計画の書き方	全体をまとめながら、学生に提出させる研究計画書の書き方を考える。	

教科書	福富和夫 橋本修二 「保健統計・疫学」 南山堂.
参考書	「国民衛生の動向」最新版 (毎年9月に最新版が発行されます)

科目名	家族社会学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	内藤和美	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎教育で習得した家族に関する基本的知識をもとに、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識、とくに個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係に関する見識を深め、患者・対象者だけでなく家族を視野に入れた適切な保健医療サービスを提供し得る力を養う
学習到達目標	1) 家族、労働、ジェンダーを題材に、個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係、という視点を獲得し、その視点から現象を考察できるようになる 2) 個人・家族を社会資源とつなぎ・駆使・調整することによって、問題解決や QOL の向上をはかる力が高まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1.	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造①	製造装置としての「性別分業」、一次生産物としての「社会資源の男性偏在」、二次生産物としての「女性問題」	内藤 和美
2.	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造②	社会的労働と私生活労働の性別分業	内藤 和美
3.	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造③	社会的労働内部の性別分業、2つの分業の再生産関係	内藤 和美
4.	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造	女性問題—「女性に対する暴力」を具体例に	内藤 和美
5.	家族機能の破綻とその解決援助①	ドメスティックバイオレンスはどういう問題か	内藤 和美
6.	家族機能の破綻とその解決援助②	ドメスティックバイオレンスの解決支援	内藤 和美
7.	家族機能の破綻とその解決援助③	DVD 視聴	内藤 和美
8.	家族機能の破綻とその解決援助④	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティック・バイオレンス	内藤 和美
9.	家族機能の破綻とその解決援助⑤	児童虐待への対応—予防、発見、危機介入（初期対応）、問題解決のための長期的対応	内藤 和美
10.	家族機能の破綻とその解決援助⑥	児童虐待への対応の鍵概念—自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	内藤 和美
11.	ケアとジェンダー①	「ケアすること」の女性偏在の意味	内藤 和美
12.	ケアとジェンダー②	主婦という制度、「母性」規範	内藤 和美
13.	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な秩序へ①	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な社会像	内藤 和美
14.	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な秩序へ②	ワークライフバランス、家事労働のゆくえ	内藤 和美
15.	まとめ	まとめ	内藤 和美

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	千田有紀：日本型近代家族—どこから来てどこへ行くのか。勁草書房、2011 柏木恵子：父親になる、父親をする：家族心理学の視点から。岩波ブックレット；No. 811, 2011 石井朝子：よくわかる DV 被害者への理解と支援。明石書店、2009

科目名	教育学	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	横井利男	単位	2	必修・選択	選択

目的	1) 教育の原理と、教育の内容や方法について概観する。 2) 成人の教育の特色について理解する。 3) 保健医療福祉分野における教育の特色、今後の教育のあり方について理解する。
学習到達目標	成人の学習者を対象に行われる教育の特徴を理解し、保健医療福祉分野を担う人材の質を高めるための教育について問題意識をもち、解決の方向を見いだす。
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	教育原理	教育の目的・理念 教育思想	横井 利男
2		教育の場 教育の内容 学力	横井 利男
3		学習意欲 動機付け	横井 利男
4		発達段階 発達課題	横井 利男
5		ペダゴジー アンドラゴジー	横井 利男
6		行動主義 認知主義	横井 利男
7	保健医療専門職の教育	人間性の教育 態度の教育 個性	横井 利男
8		知識・理解教育 問題解決能力の教育	横井 利男
9		教師中心の教育 学生中心の教育	横井 利男
10	指導方法	目標 方策 S P I C E Sモデル	横井 利男
11		臨床教育	横井 利男
12		フィードバック	横井 利男
13	評価	評価の方法	横井 利男
14		総括的評価 形成的評価	横井 利男
15	まとめ		横井 利男

教科書	使用しない
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する

科目名	応用英語	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	杉田雅子	単位	1	必修・選択	選択

目的	研究に必要な情報・知識を得るための英文読解力と、各自の研究成果を英語で表現する力の養成。音声面では正しい発音・アクセントで英文が読める力の養成。
学習到達目標	1) 基礎的英文法を確認しながら構文を分析し、英語文献を正しく読み取る力が高まる。 2) 読み取った内容から論旨を把握し、要約する力が高まる。 3) 運用できる専門用語が増える。 4) 英文を正しい発音、アクセントで読む力が高まる。
成績評価方法	課題、授業での発表、出席状況を以て評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	医療・健康に関する英文を読む①	Osteoporosis についての文献を読む。	杉田 雅子
2	医療・健康に関する英文を読む②	Rehabilitation についての文献を読む。	杉田 雅子
3	医療・健康に関する英文を読む③	Stress についての文献を読む。	杉田 雅子
4	医療・健康に関する英文を読む④	Risk Management についての文献を読む。	杉田 雅子
5	医療・健康に関する英文を読む⑤	Ethical Issues についての文献を読む。	杉田 雅子
6	医療・健康に関する英文を読む⑥	Changes in Sleep Patterns in COPD についての文献を読む。	杉田 雅子
7	医療・健康に関する英文を読む⑦	Changes in Sleep Patterns in COPD についての文献を読む。	杉田 雅子
8	医療・健康に関する英文を読む⑧	Confusion についての文献を読む。	杉田 雅子
9	医療・健康に関する英文を読む⑨	Confusion についての文献を読む。	杉田 雅子
10	医療・健康に関する英文を読む⑩	Communicating with Infants についての文献を読む。	杉田 雅子
11	医療・健康に関する英文を読む⑪	Communicating with Infants についての文献を読む。	杉田 雅子
12	Abstract の読み方、書き方	実際の論文の abstract を読み、書き方を説明する。	杉田 雅子
13	研究論文を読む①	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
14	研究論文を読む②	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
15	研究論文を読む③	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	英和辞典、英々辞典 飯田恭子：カタカナでわかる医療英単語、医学書院、2005 飯田恭子、平井美津子：アタマとオシリでわかる医療英単語、医学書院、2006

科目名	保健学特別セミナー	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	大野絢子 真砂涼子 高橋正明 江口勝彦 牛込三和子 酒井美絵子 鈴木珠水 早川有子 松澤正 木村朗 伊藤まゆみ 矢島正榮 小林亜由美	単位	2	必修・選択	必修

目的	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらの知識・情報を各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討に役立てる。
学習到達目標	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらを活用して、各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討が進む。
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	基礎保健学Ⅰ	基礎看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	真砂 涼子
2	基礎保健学Ⅱ	第1回の講義を踏まえた討論、演習を行なう。	真砂 涼子
3	基礎保健学Ⅲ	基礎理学療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	江口 勝彦
4	基礎保健学Ⅳ	基礎理学療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	高橋 正明
5	基礎保健学Ⅴ	第4回の講義を踏まえた討論、演習を行なう。	高橋 正明
6	成人保健学Ⅰ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	牛込 三和子
7	成人保健学Ⅱ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	鈴木 珠水
8	成人保健学Ⅲ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	酒井 美絵子
9	成人保健学Ⅳ	母子看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	早川 有子
10	成人保健学Ⅴ	臨床理学療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	松澤 正
11	成人保健学Ⅵ	臨床理学療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	木村 朗
12	老年保健学Ⅰ	老年看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	伊藤 まゆみ
13	地域保健学Ⅰ	地域・在宅看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。	大野 絢子
14	地域保健学Ⅱ	地域看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。また、看護教育学についても触れる。	矢島 正榮
15	地域保健学Ⅲ	地域看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。また、看護教育学についても触れる。	小林 亜由美

教科書	使用しない
参考書	山手茂：園田恭一：保健・医療・福祉の研究・教育・実践．東信堂、2007 イアン・K．クロンビー：津富宏 医療専門職のための研究論文の読み方：批判的吟味がわかるポケットガイド．金剛出版、2007

科目名	基礎看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	真砂涼子	単位	2	必修・選択	選択

目的	看護独自の援助法（看護技術）に関する研究の動向や課題について理解する。さらに、看護援助の効果について総合的に分析・評価するための最新の知見と新たな介入法の開発の課題について理解する。
学習到達目標	1) 人間・環境・健康・看護を探究する看護学の研究の動向や課題について理解する。 2) 看護実践の効果を科学的に検証し、新しい看護介入方法の開発につながる研究方法並びに人間関係を基盤とする看護現象の分析に関する研究方法を学ぶ。
成績評価方法	出席及びレポート。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	真砂涼子
2	基礎看護学領域の動向と課題Ⅰ	看護学の視点における生活環境刺激と生体反応	真砂涼子
3	基礎看護学領域の動向と課題Ⅱ	看護技術開発と看護技術研究の動向	真砂涼子
4	基礎看護学領域の動向と課題Ⅲ	基礎看護学に関連する国内外の研究について	真砂涼子
5	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅰ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（1）	真砂涼子
6	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅱ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（2）	真砂涼子
7	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅲ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（3）	真砂涼子
8	感覚機能に働きかける看護実践の研究の動向Ⅳ	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術開発と研究の動向（4）	真砂涼子
9	基礎看護学領域の研究動向Ⅰ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（1）	真砂涼子
10	基礎看護学領域の研究動向Ⅱ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（2）	真砂涼子
11	基礎看護学領域の研究動向Ⅲ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（3）	真砂涼子
12	基礎看護学領域の研究動向Ⅳ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（4）	真砂涼子
13	基礎看護学領域の研究動向Ⅴ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（5）	真砂涼子
14	基礎看護学領域の研究動向Ⅵ	基礎看護学に関連する国内外文献購読の実際（6）	真砂涼子
15	看護学の体系化における基礎看護学の課題	看護学の体系化における基礎看護学の課題	真砂涼子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	真砂涼子	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎看護学特論で理解した看護援助の効果について課題別に文献考査し、先行研究の批判的考察を行い、今後の課題について演習する。
学習到達目標	研究課題を見出し、文献レビューを通して、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を実際に理解し、個別の具体的な課題に関する研究計画書を作成する。
成績評価方法	各自の設定した課題に基づいて立案した研究計画書及び出席状況。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題	真砂涼子
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	真砂涼子
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	真砂涼子
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題と研究方法（1）	真砂涼子
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題と研究方法（2）	真砂涼子
6	研究課題の検討Ⅵ	研究における倫理面の検討	真砂涼子
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題に関連する文献レビュー（1）	真砂涼子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究課題に関連する文献レビュー（2）	真砂涼子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究課題に関連する文献レビュー（3）	真砂涼子
10	研究計画立案Ⅰ	研究論文の作成と研究成果の公表	真砂涼子
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画（1）	真砂涼子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画（2）	真砂涼子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画（3）	真砂涼子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画（4）	真砂涼子
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画（5）	真砂涼子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	高橋正明 江口勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	理学療法学研究に資する基礎理学療法学に関する知識の滋養・概念の整理
学習到達目標	
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション		高橋 正明・江口 勝彦
2	基礎運動学特論 1	基礎運動学特論 総論および各論	高橋 正明
3	基礎運動学特論 2	基礎運動学特論 総論および各論	高橋 正明
4	基礎運動学特論 3	基礎運動学特論 総論および各論	高橋 正明
5	基礎運動学特論 4	基礎運動学特論 総論および各論	高橋 正明
6	基礎運動学特論 5	基礎運動学特論 総論および各論	高橋 正明
7	基礎運動学特論 6	基礎運動学特論 総論および各論	高橋 正明
8	基礎理学療法研究入門 1	文献・論文の読み方 1	江口 勝彦
9	基礎理学療法研究入門 2	文献・論文の読み方 2	江口 勝彦
10	基礎理学療法研究入門 3	論理学入門 1	江口 勝彦
11	基礎理学療法研究入門 4	論理学入門 2	江口 勝彦
12	基礎理学療法研究入門 5	基礎理学療法各領域に関する研究の現状	江口 勝彦
13	基礎理学療法研究入門 6	基礎理学療法各領域に関する研究の現状	江口 勝彦
14	基礎理学療法学潮流 1	基礎理学療法学研究の潮流 1	高橋 正明
15	基礎理学療法学潮流 2	基礎理学療法学研究の潮流 2	江口 勝彦

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）。
参考書	授業の中で紹介する。

科目名	基礎理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	高橋正明 江口勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	身体の動作、特に関節運動とバランス戦略に関する内外の先行研究を考証する。また、理学療法の対象となる疾患の病態と姿勢・動作との関連について考証し、さらに、最新の知見について検証・演習し理学療法技術の確立に寄与する。また、呼吸と循環の解析・評価方法や、呼吸器、循環器疾患の病態とそれに起因する機能・能力障害とその解析・評価手法に関する内外の先行研究を広く考証し、最近知見について検証・演習をおこなう。また、装具着用による身体運動・呼吸・循環の応答とその解析・評価に関する先行研究を広く考証する。
学習到達目標	1) 身体の姿勢・動作・呼吸・循環に関する現在の研究動向・トピックスがわかる。 2) それらを理学療法の実践現場で応用できる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
		※本年度開講せず	

教科書	
参考書	

科目名	成人看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	牛込三和子 酒井美絵子 鈴木珠水 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	成人看護学の対象となる主な疾病の保健と医療の動向および医療対策、専門的看護実践の基礎となる、対象理解、アセスメント、看護技術、支援システム、家族支援について理解し、今日的課題をみいだす。また、成人看護学基礎教育のカリキュラムと臨地実習について現状と課題について理解を深める。
学習到達目標	1) 生活習慣病、がん、難病の保健と医療の動向を理解する。 2) 成人看護の動向を理解する。 3) 成人看護学基礎教育のカリキュラム、臨地実習について現状と課題を理解する。
成績評価方法	平常点（課題についてのプレゼンテーションと討議内容）、レポート。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	はじめに	成人看護学特論の展開について	牛込三和子・酒井美絵子 鈴木珠水・萩原英子
2	医療対策の動向 1	医療提供体制	牛込三和子
3	医療対策の動向 2	在宅医療	牛込三和子
4	保健と医療の動向 1	生活習慣病対策	鈴木珠水
5	成人看護の動向 1	慢性病看護	鈴木珠水
6	保健と医療の動向 2	がん対策	鈴木珠水・萩原英子
7	成人看護の動向 2	がん看護	鈴木珠水・萩原英子
8	成人看護の動向 3	看護と法律	酒井美絵子
9	成人看護の動向 4	看護におけるリスクマネジメント	酒井美絵子
10	成人看護の動向 5	看護管理 1	酒井美絵子
11	成人看護の動向 6	看護管理 2	酒井美絵子
12	保健と医療の動向 3	難病対策	牛込三和子
13	成人看護の動向 7	難病看護	牛込三和子
14	成人看護学基礎教育の現状と課題 1	カリキュラム	牛込三和子・酒井美絵子
15	成人看護学基礎教育の現状と課題 2	臨地実習	鈴木珠水・萩原英子

教科書	国民衛生の動向 2011 年版。その他必要に応じて提示する。
参考書	適宜紹介する

科目名	成人看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	牛込三和子 酒井美絵子 鈴木珠水 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	がん、慢性病、難病等を持つ患者、急性期治療を要する患者等に対する最新の看護知見、社会支援システム、成人看護学教育のありかたについて、国内外の文献抄読、各自の実践報告などを通して、実践・研究の現状を学び、各自の研究計画を作成する。
学習到達目標	1) 文献抄読を通して成人看護学領域における研究の最新の知見を学ぶ。 2) 自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成できる。
成績評価方法	各自の設定した課題に基づいて立案した研究計画書

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題	牛込三和子・酒井美絵子 鈴木珠水・萩原英子
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	牛込三和子・酒井美絵子 鈴木珠水・萩原英子
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	酒井美絵子・鈴木珠水
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題と研究方法 1.	酒井美絵子・鈴木珠水
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題と研究方法 2.	酒井美絵子・鈴木珠水
6	研究課題の検討Ⅵ	研究における倫理面の検討	酒井美絵子・鈴木珠水
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題に関連する文献レビュー1.	酒井美絵子・牛込三和子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究課題に関連する文献レビュー2.	酒井美絵子・牛込三和子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究課題に関連する文献レビュー3.	酒井美絵子・鈴木珠水
10	研究計画立案Ⅰ	研究論文の作成と研究成果の公表	酒井美絵子・鈴木珠水
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画 1.	酒井美絵子・萩原英子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画 2.	酒井美絵子・萩原英子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画 3.	酒井美絵子・牛込三和子 鈴木珠水・萩原英子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画 4.	酒井美絵子・牛込三和子 鈴木珠水・萩原英子
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画 5. 研究計画書の発表	酒井美絵子・牛込三和子 鈴木珠水・萩原英子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	母子看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	早川有子 野田智子 中島久美子	単位	2	必修・選択	選択

目的	女性のライフステージ各期における健康問題と看護、小児各期の健康問題と看護について学ぶとともに、女性や子ども、家族をめぐる最新の知識と今日的課題を学ぶ。
学習到達目標	1. 母子保健、女性のライフステージ各期における健康問題の現状分析と看護支援のあり方、ならびに今日的課題を理解する。 2. 子どもと家族に対する健康段階に応じた成長発達支援、健康支援のあり方を理解する。
成績評価方法	分担課題についてのプレゼンテーションと討議、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	母子の健康問題 I	ガイダンス 母子に関する今日的課題 1 (国内)	早川 有子
2	母子の健康問題 II	母子に関する今日的課題 2 (国外)	早川 有子
3	母子の健康問題 III	母子に関する今日的課題発表・討議	早川 有子
4	母子の健康問題 IV	母子の感染症予防に関する研究 (実験)	早川 有子
5	母子の健康問題 V	母子の感染症予防に関する研究 (調査研究)	早川 有子
6	母性の健康問題 I	子ども虐待の背景と親子関係、子育て支援	中島 久美子
7	母性の健康問題 II	夫婦関係、妻への夫の関わりに関する研究 1 (文献レビュー)	中島 久美子
8	母性の健康問題 III	夫婦関係、妻への夫の関わりに関する研究 2 (質的研究)	中島 久美子
9	母性の健康問題 IV	夫婦関係、妻への夫の関わりに関する研究 3 (量的研究)	中島 久美子
10	子どもと家族をめぐる健康問題 I	地域における育児支援と小児看護	野田 智子
11	子どもと家族をめぐる健康問題 II	身体障害を抱える子どもと家族の現状 1	野田 智子
12	子どもと家族をめぐる健康問題 III	身体障害を抱える子どもと家族の現状 2	野田 智子
13	子どもと家族をめぐる健康問題 IV	発達障害を抱える子どもと家族の現状 1	野田 智子
14	子どもと家族をめぐる健康問題 V	発達障害を抱える子どもと家族の現状 2	野田 智子
15	討議	学んだことを生かした全体討議 (今後の課題含む)	早川 有子

教科書	指定せず
参考書	適宜紹介する

科目名	臨床理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	松澤正 鈴木学 木村朗	単位	2	必修・選択	選択

目的	理学療法学研究に資する臨床理学療法学に関する知識の滋養・概念の整理
学習到達目標	
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション		松澤正・木村朗 鈴木学
2	臨床物理療法学特論 1	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
3	臨床物理療法学特論 2	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
4	臨床物理療法学特論 3	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
5	臨床物理療法学特論 4	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
6	臨床理学療法学特論 1	神経評価特論	鈴木学
7	臨床理学療法学特論 2	神経治療特論	鈴木学
8	臨床身体活動学特論 1	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
9	臨床身体活動学特論 2	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
10	臨床身体活動学特論 3	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
11	臨床身体活動学特論 4	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
12	臨床理学療法学特論 3	臨床思考教育特論	鈴木学
13	臨床理学療法学特論 4	臨床思考教育特論	鈴木学
14	臨床理学療法学潮流 1	臨床理学療法学研究の潮流 1	松澤正
15	臨床理学療法学潮流 2	臨床理学療法学研究の潮流 2	木村朗

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	平成 24 年度において使用可能なメディア等、授業の中で紹介する

科目名	臨床理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	松澤正 木村朗	単位	2	必修・選択	選択

目的	物理療法に含まれる各種治療法についての物理学的・理学的基礎、ならびに、それらの臨床応用に関して考証をおこなう。特に、生活の質を向上させるリハビリテーションに寄与するための治療手法や、保健医療福祉の各分野にわたる物理療法の適用に関して考証をおこない、さらに、これらに係わる最新の知見を検証・演習する。また、物理療法機器が身体や環境に与える影響とその計測・評価手法について考証し、機器使用時のリスク管理についても検討する。
学習到達目標	現在の物理療法機器、その応用範囲、それらの研究動向についてわかり、理学療法の実践で応用できる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
		※本年度開講せず	

教科書	
参考書	

科目名	老年看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	伊藤 まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護の実践の基礎となる、対象理解、支援・評価方法の理論と技術、高齢者医療を取り巻く制度、政策、及び今日的課題を学ぶ。さらに老年看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。
学習到達目標	1) 高齢者の加齢に伴う変化と、からだ・こころの健康問題について理解する。 2) 高齢者看護の最新の知識とエビデンスに基づいた看護支援方法について理解する。 3) 老年看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	コース概要、学習の進め方、受講にあたっての自己課題	伊藤 まゆみ
2	老年看護学特論の概要	老年看護学の概念、老年看護学の歴史的変遷	伊藤 まゆみ
3	老年期の発達理論	老化理論とエイジング、老年期の発達理論の新しい考え方	伊藤 まゆみ
4	高齢者の健康問題	からだ・こころ・社会的側面からみた高齢者特有の健康問題	伊藤 まゆみ
5	健康増進活動とメンタルヘルス	高齢者における健康増進活動の可能性とその効果、高齢者とうつ病	伊藤 まゆみ
6	高齢者の健康障害と看護Ⅰ	急性・慢性の健康障害	伊藤 まゆみ
7	高齢者の健康障害と看護Ⅱ	せん妄	伊藤 まゆみ
8	高齢者の健康障害と看護Ⅲ	認知症	伊藤 まゆみ
9	高齢者のエンドオブライフ・ケア	人生の最終末期における看護	伊藤 まゆみ
10	高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護①	超高齢社会における制度・政策と看護への期待	柏木 とき江
11	高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護②	地域における認知症ケアシステムの構築	柏木 とき江
12	高齢者ケアの倫理的課題	高齢者と人権、成年後見制度、高齢者虐待、身体拘束	伊藤 まゆみ
13	高齢者と家族	高齢者ケアにおける家族のとらえ方、家族支援	伊藤 まゆみ
14	老年看護学教育Ⅰ	看護基礎教育における老年看護学教育	伊藤 まゆみ
15	老年看護学教育Ⅱ	現任教育における老年看護学教育	伊藤 まゆみ

教科書	なし
参考書	エイジング心理学、谷口幸一・佐藤眞一編著、北大路房

科目名	老年看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	伊藤まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護学に関する課題とその動向を概説し、自己の研究課題を探求する。また、課題探求のための具体的な計画書が作成できる。
学習到達目標	1) 文献レビュー、実践活動の分析から自己の研究課題を見いだすことができる。 2) 課題探求のための研究デザイン、方法について追求できる。 3) 研究計画書が作成できる。
成績評価方法	出席状況、文献レビュー・実践活動からの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	授業の進め方、研究計画立案から論文作成まで	伊藤 まゆみ
2	研究の進め方Ⅰ	研究課題の探索、文献検索と抄読の方法	伊藤 まゆみ
3	研究の進め方Ⅱ	研究方法について①	伊藤 まゆみ
4	文献レビューⅠ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤 まゆみ
5	研究の進め方Ⅲ	研究方法について②	伊藤 まゆみ
6	文献レビューⅡ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤 まゆみ
7	研究の進め方Ⅳ	研究における倫理の問題	伊藤 まゆみ
8	文献レビューⅢ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤 まゆみ
9	文献レビューⅣ	文献レビューのまとめ	伊藤 まゆみ
10	研究計画Ⅰ	研究計画書の作成方法	伊藤 まゆみ
11	研究計画Ⅱ	研究課題の焦点化、研究目的	伊藤 まゆみ
12	研究計画Ⅲ	研究デザイン・方法	伊藤 まゆみ
13	研究計画Ⅳ	研究実施計画	伊藤 まゆみ
14	研究計画Ⅴ	倫理面の検討	伊藤 まゆみ
15	研究計画Ⅵ	研究計画の発表と討議	伊藤 まゆみ

教科書	看護研究 step by step 黒田裕子著、学研
参考書	看護研究－原理と方法第2版、D.F. ポーリット著、近藤潤子監訳、医学書院 看護研究計画書－作成の基本ステップ、小玉香津子訳、日本看護協会出版会

科目名	精神看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	小林 信	単位	2	必修・選択	選択

目的	ひとのからだところの理解を深め、精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論、実践の場で行う援助技術について学ぶ。また高齢者のところの健康を支援するための行政、地域社会の役割と課題について理解を深める。さらに精神看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。
学習到達目標	1) ひとのところの健康と発達理論、精神看護の基礎理論について理解する。 2) 精神看護の実践に必要な援助技術、医療制度・政策の現状と課題について理解する。 3) 精神看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	精神看護学特論の概要	精神看護学の概念及び精神看護学と研究をとりまく最近の動向	小林 信
2	からだところの健康	精神看護学における健康の概念	小林 信
3	ところの発達理論Ⅰ	精神力動理論（フロイト：心の機能と構造）	小林 信
4	ところの発達理論Ⅱ	精神力動理論（エリクソン：発達課題）	小林 信
5	精神看護の基礎理論Ⅰ	セルフケアモデル	小林 信
6	精神看護の基礎理論Ⅱ	地域ケアモデル（ACT-J）	小林 信
7	精神看護の基礎理論Ⅲ	危機理論（アギュララ）	小林 信
8	精神看護の基礎理論Ⅳ	生物学モデル（精神科薬物療法）	小林 信
9	リエゾン精神看護	リエゾン精神医学の基礎と看護への適用	小林 信
10	精神看護の援助技術Ⅰ	コンサルテーション技術	小林 信
11	精神看護の援助技術Ⅱ	高感情表出と家族支援	小林 信
12	精神保健福祉政策	現状と課題	小林 信
13	救急医療	精神科救急の現状と課題	小林 信
14	研究の動向と課題	精神看護学研究の動向と課題	小林 信
15	精神看護学教育	教育の理論と方法、展開、評価	小林 信

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配付する）
参考書	適宜紹介する

科目名	精神看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	小林 信	単位	2	必修・選択	選択

目的	精神看護学の実践における基本的技術としてのカウンセリング技術、ケーススタディの方法論についての理解を深める。また、精神看護学に関する課題とその動向を概観し、精神看護実践における研究課題を探求する。さらに、実践の質向上のために必要な研究テーマ及び研究方法について探求する。
学習到達目標	1) 精神看護実践のためのカウンセリング技術を習得する。 2) フィールドワーク、ケーススタディ、文献レビューを実践、報告できる。 3) 自己の研究課題を見だし、課題探求のための計画を具体化できる。
成績評価方法	出席状況、カウンセリング技術演習の成果、フィールドワーク・ケーススタディ・文献レビューの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
		※本年度開講せず	

教科書	
参考書	

科目名	高齢者理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	浅田春美 加藤仁志	単位	2	必修・選択	選択

目的	身体とその運動機能の加齢変化、それらによる生活の変容などについて教授する。中でも特に、高齢者の転倒に係わるバランス機能、日常生活活動の自立度、活動量の変化とそれらの評価方法について教授する。また、高齢者の生活自立度、生活の質の維持向上ために必要な運動機能やこれらの機能維持のためにおこなわれる理学療法介入方法とその評価方法、研究方法などについて教授する。
学習到達目標	1) 身体とその運動機能の加齢変化とそれによる生活の変容がわかる。 2) 高齢者の生活自立・生活の質の維持向上に必要な理学療法介入についてわかる。また、それらの評価方法・研究方法がわかる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	ガイダンス	ガイダンス	浅田 春美
2	日本における高齢者の実態（総論）	理学療法の対象となる高齢者の区分	浅田 春美・加藤 仁志
3	〃	老年症候群	浅田 春美・加藤 仁志
4	高齢者の評価	高齢者に関する評価	浅田 春美・加藤 仁志
5	〃	<運動機能・ADL・QOL・その他>	浅田 春美・加藤 仁志
6	各制度における理学療法の役割 1	介護保険制度の中での理学療法の役割・課題	浅田 春美・加藤 仁志
7	〃	<通所・入所>	浅田 春美・加藤 仁志
8	各制度における理学療法の役割 2	高齢者施策：介護予防事業での理学療法	浅田 春美・加藤 仁志
9	〃	<運動器、口腔・栄養、認知>	浅田 春美・加藤 仁志
10	〃	高齢者のバランス機能と動作	浅田 春美・加藤 仁志
11	〃	高齢者の運動機能評価	浅田 春美・加藤 仁志
12	課題報告・討論	各自治体における高齢者施策における理学療法士の役割 討論	浅田 春美・加藤 仁志
13	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志
14	高齢者に関する文献抄読（報告）	高齢者に関する文献<理学療法評価・介入>	浅田 春美・加藤 仁志
15	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	地域看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	大野 絢子 矢島 正栄 小林 亜由美 小林 和成 廣田 幸子 中下 富子 齊藤 玲子	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論と技術、対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化について教授する。また、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について教授する。さらに、地域看護学教育の歴史と展望、地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題、地域看護管理について教授する。
学習到達目標	1) 地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について理解できる。 2) 対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化の意義と方法、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映の方法がわかる。 3) 地域看護学教育の歴史をふまえた基礎教育及び現任教育の役割と課題がわかる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	地域看護学教育Ⅰ	地域看護学教育の基本的な考え方	大野 絢子
2	地域看護学教育Ⅱ	地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題	大野 絢子
3	地域における保健師の活動	個人、家族、集団を対象とした地域看護の理論と技術	大野 絢子
4	地域における保健師の活動	地域保健法と保健師の活動	大野 絢子
5	対象別地域看護実践方法Ⅰ	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
6	対象別地域看護実践方法Ⅰ	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
7	対象別地域看護実践方法Ⅱ	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
8	対象別地域看護実践方法Ⅱ	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
9	対象別地域看護実践方法Ⅲ	精神保健活動の展開方法、精神保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
10	職域別地域看護実践方法Ⅰ	産業保健活動の展開方法、産業保健の現状と今後の課題	齊藤 玲子
11	職域別地域看護実践方法Ⅱ	学校保健活動の展開方法、学校保健の現状と今後の課題	中下 富子
12	地域看護学教育Ⅲ	保助看法、人材確保法と保健師の現任教育	大野 絢子
13	地域看護学教育Ⅳ	保助看法、人材確保法と保健師の現任教育	大野 絢子
14	地域看護の歴史	地域看護学の歴史と展望	大野 絢子
15	地域看護管理	地域看護管理	大野 絢子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	地域看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	矢島正栄・小林亜由美・小林和成	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域看護学に関する研究の動向を理解し、事故の研究課題を探求する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。
学習到達目標	1) 地域看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 2) 地域看護学領域における研究の動向がわかる。 3) 自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
		※本年度開講せず	

教科書	
参考書	

科目名	在宅看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	大野絢子 小笠原映子 小林和成	単位	2	必修・選択	選択

目的	在宅ケアシステム構築に関する理論と方法について教授する。また、在宅看護に必要なアセスメント、ケアマネジメント、及びケアの評価の方法、在宅看護技術、在宅ケアにおける家族指導技術、在宅ケアチームの形成について教授する。また、在宅看護における看護管理の方法について教授する。さらに、在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題について教授する。
学習到達目標	1) 在宅看護技術の特質、家族に対する指導技術、在宅ケアマネジメントの意義と方法、在宅ケアシステム構築に関する理論と方法がわかる。 2) 在宅看護における看護管理の方法がわかる。 3) 在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題がわかる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	在宅看護学教育 I	在宅看護学教育の基本的な考え方	大野 絢子
2	在宅看護学教育 II	在宅看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題	大野 絢子
3	地域における看護職の活動 I	個人、家族、集団を対象とした地域看護の理論と技術	大野 絢子
4	地域における看護職の活動 II	地域保健法と保健師の活動	大野 絢子
5	成人・高齢者保健活動	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	大野 絢子
6	成人・高齢者保健活動	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	大野 絢子
7	在宅看護の基礎 I	在宅看護の考え方	大野 絢子
8	在宅看護の基礎 II	在宅看護の考え方	大野 絢子
9	在宅看護の基礎 III	在宅看護技術	小笠原映子
10	在宅看護の基礎 IV	在宅看護技術	小笠原映子
11	介護保険と在宅看護	介護保険と在宅看護	小林和成
12	在宅看護学教育 I	保助看法、人材確保法と保健師・看護師の現任教育	大野 絢子
13	在宅看護学教育 II	保助看法、人材確保法と保健師・看護師の現任教育	大野 絢子
14	在宅看護の歴史	在宅看護の歴史	大野 絢子
15	在宅看護管理	在宅看護管理	大野 絢子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	在宅看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	大野 絢子 小林 和成	単位	2	必修・選択	選択

目的	在宅看護学に関する研究の動向を理解し、事故の研究課題を探求する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。
学習到達目標	4) 在宅看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 5) 在宅看護学領域における研究の動向がわかる。 6) 自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
		※本年度開講せず	

教科書	
参考書	

科目名	地域理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	目黒力 蛭間基夫	単位	2	必修・選択	選択

目的	高齢者や身体障害者が地域での生活を維持・改善するために必要な住環境整備、交通整備、街づくりなどを中心に教授する。また、地域保健を实践するための関連職種とその役割、そのチームにおける理学療法士の役割、地域保健を实践するために必要な社会制度などについて教授する。また、これらを実現することの礎となる事柄、すなわち、高齢者や身体障害者の身体特性、特に視力や認知機能、高齢者および障害者の日常生活活動・住環境・外出時の移動・交通利用の実態と、それらを改善するためのデザイン手法（ユニバーサル・デザイン）や研究方法について教授する。
学習到達目標	1) 高齢者・身体障害者の生活に必要な住環境・交通・街についてわかる。 2) 地域保健における理学療法士の役割がわかり、実践のための自己の課題が明確になる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	環境Ⅰ	高齢者・身体障害者と生活	目黒力・蛭間基夫
2	環境Ⅱ	高齢者・身体障害者と住環境（1）	目黒力・蛭間基夫
3	環境Ⅲ	高齢者・身体障害者と住環境（2）	目黒力・蛭間基夫
4	環境Ⅳ	高齢者・身体障害者と街づくり（1）	目黒力・蛭間基夫
5	環境Ⅴ	高齢者・身体障害者と街づくり（2）	目黒力・蛭間基夫
6	社会制度	地域保健活動と社会制度	目黒力・蛭間基夫
7	人的環境Ⅰ	地域保健活動における関連職種の役割	目黒力・蛭間基夫
8	人的環境Ⅱ	地域保健活動における理学療法士の役割	目黒力・蛭間基夫
9	身体・認知能力Ⅰ	高齢者・身体障害者の身体機能と認知能力（1）	目黒力
10	身体・認知能力Ⅱ	高齢者・身体障害者の身体機能と認知能力（2）	目黒力
11	生活	高齢者・身体障害者の日常生活活動	目黒力
12	交通Ⅰ	高齢者・身体障害者と交通（1）	目黒力
13	交通Ⅱ	高齢者・身体障害者と交通（2）	目黒力
14	デザインⅠ	ユニバーサルデザイン（1）	目黒力
15	デザインⅡ	ユニバーサルデザイン（2）	目黒力

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する